

入間川地区中学校統廃合検討協議会第2回会議録

- ・開催日時 平成23年6月16日（木） 午後6時30分～8時00分
- ・開催場所 狭山市役所6階603・604会議室
- ・出席者 16名（欠席者4名）
- ・事務局 生涯学習部長 次長兼教育総務課長 学校統廃合担当課長 同担当主任
学校教育部参事兼教育指導課長
- ・傍聴者 5名

【会議内容】

1 開 会

2 委員の委嘱

3 会長あいさつ

4 副会長の指名及び副会長あいさつ 齊藤修司委員が副会長に指名される。

5 議 事

（1）入間川地区の中学校の統廃合について

（事務局） ——— 配付資料説明 ———

（委 員）東中を建て替える場合、いくら位費用がかかりますか。

（事務局）現在の生徒数に見合った規模の学校を造る場合には、22億円程度が見込まれています。

（委 員）入間川地区に3校ある中学校のうち1校を廃校にした場合、学区変更で入間川地区以外の中学校に行くことはあり得ますか。

(事務局) 例えば中央中は保有している普通教室の数が少ないなど、学校によっては全ての生徒を受け入れるのが難しい場合もパターンによってはあり得ますので、他の地区の中学校に行く可能性は考えられます。

(委員) 他の地区の中学校に行った方が通学距離が短くなる生徒もいますので、そういったことも考慮していく必要はあるのかなと思います。

(事務局) 次回の会議では、そういったシミュレーション的な資料を用意させていただければと考えています。

(委員) 学校の耐用年数は 47 年との話がありましたが、耐震補強工事をする、どの位延びるのですか。

(事務局) 文部科学省では、耐震補強工事と耐用年数の関係性についての明確な指針は出しておりません。ですから、狭山市でも学校をいつまで使うかということを特に定めているわけではありません。一般的に鉄筋コンは 60 年とも言われますが、60 年よりもっと長く使えるようになることを想定して耐震補強の工事は行うべきだと考えています。

(事務局) ちなみに耐用年数 47 年というのは、あくまで国庫補助金事業での減価償却の計算で使われている数字です。以前は 60 年でした。

(委員) 60 年も使えますか。7 億円かけて耐震補強工事したって、もって 10 年かそこいらではないですか。

(事務局) もちろん施設のメンテナンスを十分に行うというのが前提としてあります。学校の中にある設備は、その都度その都度改修していかないと使えなくなりますが、躯体においては 60 年ということではなく、やはり耐震補強工事をするのであれば、もっと長く使っていく必要があるだろうと考えております。

(委員) 入間川地区は沢地区から鵜ノ木地区にかけて東西に長い地域なので、鵜ノ木には入間川中学校がありますが、やはり互いの距離が近い東中か中央中のいずれかを廃校にした方がいいのではないのでしょうか。また、都市計画道路の狭山市駅加佐志線が整備優先順位の 2 番目に位置しているとのことですが、やはり駅の東口からベルクにかけては、市

街地として発展していくことが期待できる区域だと思いますので、そういったことも踏まえた上で検討していくのがいいのではないのでしょうか。

(委員) 仮に中央中が廃校になった場合、距離的なことを考えれば、奥富地区に住む生徒が柏原中に通うこともあり得ると思うのですが…。

(事務局) 柏原中も生徒数が少なくなっておりますので、選択肢としてはあると思います。今後のシミュレーションの一つとして検討したいと思います。

(委員) この統廃合の会議は、いつまでに結論を出すのですか。

(事務局) 皆様と共通理解を得ながら進めていくのが趣旨ですので、事務局側で時間を区切るのは非常に僭越な話だと思っております。ただ、今年の秋口から冬に入る前くらいまでに一定の方向性を示していただければありがたいと思っております。まずは統廃合の必要性、次に対象校の選定、そして統合校の条件整備等について順次検討を進めていただければと思っております。

(委員) 以前の幼稚園の統廃合の時は、もう市で決めてしまっていて、統廃合の委員会は後付けでつくられたようなものでしたが、逆にそれくらいやらないと、なかなか前に進まないのではないのでしょうか。これがベストだという案を市の方から出していただいて、それを検討していくといった形にした方がいいのではないのでしょうか。

(事務局) 市ではどのように考えているのかということも含めて、今後検討協議を進めていく上で、こういった資料がほしいなどといったご要望がありましたら、言っていただければと思います。

秋が深まった頃には対象校くらいまで絞っていただければありがたいと思っています。

(事務局) 狭山市では、狭山台地区と入曽地区の 2 地区の小学校で先行して統廃合を進めてまいりました。小学校と中学校とでは違いはありますが、両地区とも対象校の選定までに約半年の期間を要しました。最終的な協議会の提言までには、狭山台地区では約 1 年半、入曽地区では約 2

年半の期間を要しました。入曽地区は、狭山台地区に比べて通学路の整備に課題がありましたので、検討に時間を要したものです。

(委員) この会議では、どの程度の部分まで決めるのですか。通学路で時間がかかったとのことですが、あっちは危ないからこっちに行けとか、そんなところまで決めなければいけないのですか。

(事務局) 小学校の子どもと中学校の子どもとでは違いがありますので、基本的には背骨の部分だけ決めていただければよろしいのかなと思っております。

(委員) そういうことだね。

(議長) だいぶ意見が出ましたが、事務局の方から他には何かありますか。

(事務局) 今後の進め方について、あらためて説明させていただきます。

まずは統廃合の必要性について検討していただき、必要性が認められた場合は、次の段階として対象校の検討及び決定をしていただければと考えております。それを受けて通学区域の検討を行うこととなりますが、必要に応じて、関係小・中学校関係者の本会議への参加を考えております。最後に統廃合に向けての課題を抽出し、その解決策を探っていくということとなります。そして、最終的に答申としてとりまとめていただければと考えております。

なお、廃校後の跡地の利用につきましては、市としては現在は全くの白紙の状態です。都市計画道路の話も出ましたが、跡地に関しても意見を出していただければと思っております。

(委員) そういった進め方についてのフロー図を作っていただければ解かりやすいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員) それぞれの学校が廃校になった時、校舎の転用は可能なのかといったことも知りたいので、そういった資料も提示していただければと思います。

ちなみにグラウンドの適正規模みたいな基準はあるのですか。

(事務局) グラウンドの広さに関しての基準は特にありません。ただ、サッカー

一や野球ができるくらいの広さは必要なのではないかといった視点は出てくるのかなと思います。

(議 長) 他に何かありますか。

(委 員) この会議は、あくまでも子どもたちの教育の観点から検討すべきもので、都市計画道路とかそういったことで、この学校を廃校にするとかを決めるのは、私は違うと思います。

(議 長) いろいろと皆様から意見が出ましたが、入間川地区の中学校の統廃合に関して、基本方針に則って今後も検討協議を続けていくということで、ご了承いただけますでしょうか。

とくに異議もないようですので、今後も検討協議を進めさせていただければと思います。

(2) その他

(次回会議日程)

平成 23 年 8 月 4 日 (木) 午後 7 時～

6 閉 会

【配付資料】

- ◆ 第 1 回会議録
- ◆ 児童生徒数・学級数推計表 (学務課資料)
- ◆ 入間川地区中学校統廃合検討協議会委員名簿
- ◆ 中学校の規模と配置の適正化の必要性
- ◆ 学校規模による効果及び課題点
- ◆ 入間川地区の中学校を統廃合した場合の効果及び課題点